



TITLE:

天文同好會觀測部月報

AUTHOR(S):

---

CITATION:

天文同好會觀測部月報. 天界 1932, 12(133): 192-196

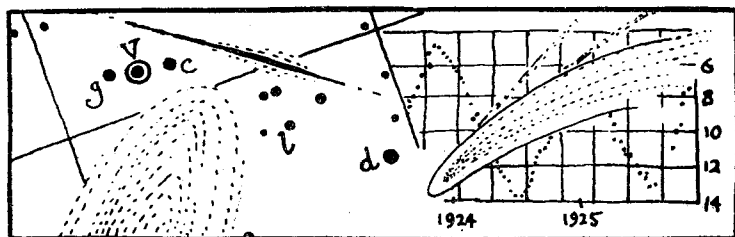
ISSUE DATE:

1932-04-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/161957>

RIGHT:



## 天文同好會觀測部月報

### 觀測部流星課報告 (32)

課長 小 横 孝 二 郎 (K. Konaki)

昨年九月及十月に於ける流星觀測數は下記の通りである。(Summary for September and October, 1931)

觀 測 者 Observer	略符 Abbr.	觀 測 地 Locality	九 月 (September)			十 月 (October)		
			回 數 Nights	時間數 Duration	流星數 Meteors	回 數 Nights	時間數 Duration	流星數 Meteors
下 保 茂	Kh	札幌市	2	85	20	13	582	65
天野 吉郎	Am	函館市	6	163	18	11	355	47
齋藤平八郎	So	函館市	1	52	7	2	132	18
稻垣 武五	Ig	東京市	2	210	19			1
八幡 修一	Yw	長野縣平野	3	150	20	4	380	70
廣瀬永治郎	Hr	岐阜縣美濃				1	35	6
麻生佐七郎	Ab	大阪市	2	105	2	4	120	5
小横孝二郎	Ko	和歌山縣金屋	3	90	18			
森 下 功	Ms	廣島市	1	90	15	5	510	94
山 田 長	Yd	山口縣小郡	6	347	19	3	192	20
坂元 鐵馬	Sk	福岡縣箱崎				2	85	6
田 端 實	Tb	臺灣桃園街				2	295	39
以下は微光流星の觀測である。(Faint-meteor Observations below;)								
鹽見 幸三	Sh	京都府福知山	1	60	38			
能勢 繁生	No	京都府中筋	2	70	20	3	95	68
村上庫二郎	Mu	京都府綾部町				1	35	14

この他に中村大助氏、皆木淺次郎氏より一箇づつの大流星の報告があつた。

## 1. 觀測の概略 (Daily Summary of Observations)

日時 Time (J.C.T.)	觀 測 者	時 間 數 Obs. Dur.	流 星 Meteors	F.	日時 Time (J.C.T.)	觀 測 者	時 間 數 Obs. Dur.	流 星 Meteors	F.	日時 Time (S.C.T.)	觀 測 者	時 間 數 Obs. Dur.	流 星 Meteors	F.
Sep. 7.86	So	52	7	0.8	Sep. 24.15	Yw	60	7	0.7	Oct. 12.89	Am	30	1	0.6
.89	Ko	30	3	1.0	Oct 1.18	Am	25	1	0.6	14.92	Am	30	4	0.8
.96	Yd	60	2	0.8	2.85	Am	30	1	0.7	.99	Ab	30	1	0.9
8.86	Yd	60	1	0.7	3.90	So	70	10	0.7	15.06	Yw	90	23	1.0
.88	Ko	30	6	1.0	5.85	Kh	105	18	0.9	.13	Ms	150	21	
9.92	Yd	60	3	0.7	.85	So	62	8	0.8	.17	Kh	35	6	0.8
.97	Ab	60	2	0.6	6.80	Kh	25	0	0.7	.87	Hr	35	6	
10.92	Yd	60	3	0.7	.95	Sk	60	3	0.4	17.05	Ms	60	11	
11.91	Yd	60	6	0.8	.91	Tb	160	28		18.13	Yw	60	4	0.3
12.14	Yw	40	7	1.0	7.91	Tb	135	22		19.05	Ms	120	24	
.83	Yd	47	4	0.7	.96	Sk	25	3	0.5	.87	Am	20	0	0.6
13.05	Ig	120	11		8.84	Kh	124	7	0.7	.99	Ab	30	0	0.7
.14	Yw	30	5	1.0	.90	Am	10	1	0.5	20.08	Kh	60	9	0.6
.94	Ko	30	9	1.0	.99	Ab	30	2	0.6	.15	Yw	50	14	1.0
.95	Am	50	1	0.7	9.80	Kh	55	4	0.9	.18	Am	50	17	0.8
15.93	Am	30	8	0.7	.90	Am	50	3	0.6	22.11	Ms	120	18	
16.96	Am	30	3	0.6	.99	Ab	30	2	0.7	.17	Yd	72	5	0.7
18.97	Am	20	2	0.6	10.11	Kh	55	4	0.9	23.06	Yw	180	29	1.0
20.12	Kh	15	0	0.2	.85	Kh	10	1	0.8	.15	Ms	60	20	
21.17	Ms	90	15		.95	Am	40	6	0.8	.17	Yd	60	3	0.6
.97	Am	23	4	0.6	11.15	Kh	10	1	0.8	24.17	Yd	60	12	0.8
22.14	Kh	70	20	1.0	.87	Kh	33	6	1.0	.18	Am	40	11	0.8
.88	Am	30	0	0.6	.90	Am	30	2	0.7	25.17	Kh	15	2	0.7
.97	Ab	45	0	0.5	12.86	Kh	15	2	0.9	31.81	Kh	40	5	0.7
23.04	Ig	90	8											

備考 1. 日時は觀測開始と終了との平均時刻を示してある。

2. F. (Factorの略) は、其地にて理想的の晴夜に見られ得ると考へらるゝ流星數を誘導する時に用ふる値で月齡、清澄度、雲等を參考にして決定した値である。故に 0.5 であれば晴夜には 2 倍の流星が見られるといふ意味を有つ事になる。

3. 上記の表は各日の流星出現の多寡を知るに役立つものである。例へば九月七日に齋藤氏(So)に觀測せられた結果によれば一時間の平均數は 8.1 個であつて、其修正値は 10.1 個である事が知られる。

## 2. 流星群の出現状況 (Notes on Apparitions of Meteor Swarms)

I. 九月下旬に出現した羊座 $\alpha$ 流星群 ( $\alpha$ -Arietid)

21日森下氏(廣島)により、22日下保氏(札幌)によりて、羊座 $\alpha$ 星附近に輻射點を有する可成顯者な流星群が觀測せられた。一時間の平均數は21日には3個22日には7個といふ割合であつた。これと同時期に鯨座 $\gamma$ 附近に輻射點を有する小流星群が下保氏によつて觀測せられた。

II. 十月上旬のペガソス座 $\gamma$ 流星群 ( $\gamma$ -Pegasid)

5日より7日に互つて下保氏及臺灣の田端氏によつてペガソス座 $\gamma$ 附近に輻射點を有する一流星群が觀測せられた。其結果を記せば。

日附 Date	觀測者 Observer	開始 Begins	終了 Ends	時間數 Interval	流星數 Meteors	$\gamma$ -Pegasid	同左一時間 平均數 Hourly Mean
Oct. 5	Kh	19 h 40m	21 h 25m	105m	18	2	1.1
6	Tb	20 30	23 10	160	28	7*	2.6
7	Tb	20 35	22 50	135	22	4*	1.8

\* この他に記録し得なかつたものが數個あつた。

以上の結果から見れば6日が極大であつた。又9日—10日にジャコビ=彗星と關聯するらしい流星を數個見られた様である。

5日下保氏によつて、アンドロメダ座附近に輻射點を有する一流星群が觀測され、これは確かとは云ひ難い。

## III. 十月中旬下旬のオリオン及双子流星群 (Orionid and Geminid)

15日から24日に互つて八幡、山田、森下、下保、天野、の諸氏がこれの觀測をとげたが、其結果はまづ例年並のものであつた。年々注意せられてゐる事である。が、此時期にオリオン座附近にて、かなり多くの從屬的流星群が活動した事が森下氏等によつて注意された。

## 3. 觀測より誘導したる輻射點 (Radiant points derived from observations)

番 號 Curr. No.	日 時 Time (J. C. T.)	輻射點(Rad. pt.)		流星數 Meteors	觀測者 Observer	確 度 Weight	備 考 Remarks
		R. A.	Decl.				
1086	Sep. 21.17	29°	+ 22°	5	Ms	3	$\alpha$ -Arietid
1087	22.14	28	+ 22	8	Kh	4	$\alpha$ -Arietid
1088	22.14	38	+ 2	5	Kh	2	$\gamma$ -Cetid
1089	Oct. 5.85	0	+ 40	9	Kh	3	$\theta$ -Andromedid
1090	6.91	355	+ 17	7	Tb	3	$\gamma$ -Pegasid
1091	7.91	358	+ 20	4	Tb	2	$\gamma$ -Pegasid

1092	10.3*	265	+ 53	5	Kh	2	Draconid
1093	15.13	87	+ 10.5	6	Ms	3	$\lambda$ -Orionid
1094	19.05	87	+ 7.5	9	Ms	4	$\gamma$ -Orionid
1095	20.08	87.5	+ 13	4	Kh	2	$\xi$ -Orionid
1096	20.15	90	+ 12	5	Yw	2	$\xi$ -Orionid
1097	22.11	90	+ 8.5	8	Ms	4	$\mu$ -Orionid
1098	23.06	98	+ 13	14	Yw	4	$\gamma$ -Geminid
1099	23.15	90.5	+ 7.5	12	Ms	4	$\mu$ -Orionid Mean of 2 Rad.

## 4. 観測されたる大流星 (Bright Meteors)

日 附 Date	観測者 Obs.	出現時刻 Time (J. C. T.)	確度 wt	継続時間 Duration	光度 Magn.	速度 Velocity	色及其他 Colour Cc.	出現点 Appearance		消滅点 Disappear		備考 Remarks
								$\alpha$	$\delta$	$\alpha$	$\delta$	
Sep. 7	Ar	21h 57m	3	1.2	-5	rS	YR 曲	287	-18	266	-26	
Oct. 15	Mr	2 33	2		$\times 2$ Sirius	rR	R	87	-22	85	-31	
10	Ig	20 1		1.5	-2 $\rightarrow$ -4	rS	Bw 稍曲	43	+62	172	+82	
13	Ns	4 26	3	0.6	$\rightarrow$ -1 $>$ -5	vvR	R	153	+40	163	+72	雲を通して観測

## 附. 獅子座流星の異常痕

臺北市の松本武男氏は昨年11月18日獅子座流星観測中、4時26分に出現した大流星が下記の如き異状な痕を有つてゐた事を報告された。(以下原文のまゝ)

『最も奇なるものでありました。木星附近から飛び出し、オリオン座の方へ向つ

て進み、銀河の中程にて白煙の如くなり、輪状に廻轉し次第に輪は大きくなりつゝ色うすくなつて、全く見えなくなつたのは4時35分でありましたから、出現から9分の後であります。』

(小楨)

## 太 陽 課 の 欄

(幹事 山本英子)

永い前からの御約束でありますのに、1926年以來の皆様からの御報告が未だ片付きません。しかし、尙ほ其の上に、益々新しい御報告がどしどし積つて参りますので、之れ等を暫くでも此のまゝ御預りしてゐるのが心苦しく感ぜられます。それで今號から下の如き形で取り敢へず各観測者の御報

告による黒點相對數を發表致します。

來月號には1932年三月と四月分、其の以後はなるべく一ヶ月分のを載せませう。何卒御観測すみ次第一日も早く御報告下さい。

三月より大分縣杵築町の渡邊恒夫様が御参加下さる由御知らせがありました。

